

公立大学法人秋田県立大学教員募集要項

1. 職名及び人員 助教または助手 1名
2. 所属 システム科学技術学部 建築環境システム学科 材料学講座
3. 専門分野 建築材料学分野
木質材料、コンクリート、鋼材等、建築の主要構成材料に関わる研究経歴を有し、これらの分野における環境問題を踏まえた持続可能性に寄与する材料の研究や教育、地域資源活用、地域貢献に意欲を持って取り組む方を求めます。
4. 担当授業科目 (学部) 建築材料実験、木質構造、システム科学演習 (建築)、建築学セミナー、研究プレゼンテーション、建築設計科目、建築学研修、卒業研究指導の補助など
(大学院) 建築環境システム学専門セミナー、修士論文指導の補助など
5. 応募資格 (1)博士の学位を有すること、または取得見込みであること
(2)当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
(3)国籍は問わないが、日本語が堪能であること
(4)採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 平成30年4月1日以降のできるだけ早い時期
7. 勤務条件等 (1)身分 公立大学法人職員として採用
(2)給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制
(3)勤務 裁量労働制
(4)任期 助教：5年の任期制 (再任回数に制限はありません)
助手：3年の任期制 (再任はできません)
(5)定年 67歳
8. 応募書類 (1)履歴書 (本学所定の様式1による。*)
(2)研究業績書 (本学所定の様式2による。*) 学術論文は、①学術誌論文 (査読付き)、②国際会議発表論文 (査読付き)、③その他に分類して記載してください。また、主要なもの3編に○をつけてください。
(3)主要論文3編 (コピー可)
(4)これまでの研究、教育及び社会活動 (地域貢献を含む。) の概要 (1000 字程度)
(5)教育に対する抱負 (1000 字程度)
(6)研究・地域貢献に対する抱負 (1000 字程度)
(7)応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8)科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
注) *印：履歴書 (様式1) 及び研究業績書 (様式2) については、
ホームページ (<http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/saiyo.htm>) をご参照下さい。
9. 応募締め切り 平成29年10月31日 (火) 必着
10. 選考方法 (1)第一次選考 提出書類審査、学部選考委員会による面接
(2)第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接
※面接の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
(1)提出先〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4
秋田県立大学システム科学技術学部 本荘キャンパス 教員選考委員長 松本 真一
※封筒の表に「建築環境システム学科教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。
応募書類は返却しません。
(2)問い合わせ先〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4
秋田県立大学システム科学技術学部 建築環境システム学科長 西田 哲也
TEL : 0184-27-2058 (ダイヤルイン) E-mail : tetsuya_nishida@akita-pu.ac.jp
12. その他 本学は、女性の職業活動における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
(女性活躍推進行動計画 : <http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/pdf/joseikatsuyaku.pdf>)
(子育て支援等行動計画 : <http://www.akita-pu.ac.jp/kosodate/kosodate.pdf>)

今回の公募で求める人材像

建築環境システム学科では、学科の研究教育方針に基づき、さらに今後強化すべき材料学講座における研究分野の観点を加え、建築の主要構成材料、特に木質材料を対象とし、環境問題を踏まえた持続可能性に寄与する研究や教育、地域資源活用、地域貢献に意欲を持って取り組める人材を求めます。

各領域に関しての具体的な人材像は下記のとおりです。

[教育]

建築を実現するためには幅広い材料の知識が必要であり、適材適所の利用が重要です。教育においては特定の材料に限らず幅広く材料に対する専門性を有し、材料利用の観点から様々な分野につながる教育を行える人材を求めます。また、地球環境問題を踏まえた将来的な持続可能性に寄与する材料の活用、維持・保全に関する教育に取り組める人材を求めます。

[研究]

本講座では循環型社会の実現に向けた持続的発展に資する材料開発・材料特性の評価を研究の主要テーマに掲げております。その上で、現在、コンクリート工学ならびに木質材料・木質構造を柱とした研究の取り組みを行っております。今後、主要建築材料となる、木材、コンクリート、鋼材のいずれにおいても、これらの研究に取り組みつつ、実用性を重視した材料開発、高性能・高耐久化を実現したいと考えております。これらのテーマに意欲的に取り組める人材を求めます。

[地域貢献]

循環型社会の実現に向けた持続的発展のためには、地域資源利用の推進、地域特性への対応は重要なファクターです。現在、材料学講座では秋田スギや火力発電所の副産物であるフライアッシュの有効活用のための研究開発に取り組んでおります。また積雪や強風に対抗できる構造、塩害・凍害に対する材料の耐久性などの、秋田沿岸地域特有の気候条件に係る研究を実施しております。これらをはじめ、地域における課題解決に意欲的に取り組める人材を求めます。

本学は、女性の職業活動における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
--

建築環境システム学科 講座・研究グループ構成

2017.4

基本方針： 建築環境システム学科は、4講座・4研究グループ体制とし、

- ① 建築学における主要な領域の総合教育を系統的に分担し、充実させる。
- ② グループ内での課題共有意識を高め、さらに境界を超えた研究活動を意識的に展開し、活性化を図る。

構造学講座

●建築構造学研究グループ

構造計画・設計、構造解析・評価、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、免震・制振構造
各種構工法

材料学講座

●建築材料学研究グループ

材料物性評価、コンクリート系材料・工法開発、木質系材料・木質構造

環境学講座

●環境計画学研究グループ

環境設計、物理・生理環境評価、設備計画

計画学講座

●都市・建築計画学研究グループ

都市・建築設計、都市・地域計画、建築施設計画、都市環境・情報システム